



日本水大賞

JAPAN WATER PRIZE

水

の惑星—地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるでしょうか……。

平成10年6月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる21世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞顕彰制度委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕氏）が設立され、事務局が公益社団法人日本河川協会内に置かれました。第7回から日本水大賞委員会に名称を変更し、第12回より委員長は日本科学未来館館長で宇宙飛行士であった毛利衛氏となり現在委員13名及び特別委員6名で構成されております。

また、第17回より国土交通省が主催者として協働しております。

日本水大賞委員会は、水循環の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第1回日本水大賞の表彰式・受賞活動発表会が平成11年3月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ盛大に開催されました。また、秋篠宮皇嗣殿下におかれましては、平成17年5月より日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されております。

第1回日本水大賞は大賞の他大臣賞として建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（当時）が贈られました。その後第3回（平成13年5月）から厚生労働大臣賞、第6回（平成16年6月）から農林水産大臣賞及び文部科学大臣賞、そして第8回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての6省から贈られるまでになりました。

また、第4回（平成14年5月）からはスウェーデンで開催される青少年を対象とした権威ある国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞に参加する日本代表の選考を兼ねた日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞から改称）が設けられました。2004年の日本代表、沖縄県立宮古農林高等学校はアジアで初めての大賞（グランプリ）を獲得しました。また、2006年は京都府立桂高等学校、2018年は青森県立名久井農業高等学校がそれぞれ準グランプリを獲得しました。

今年で第22回となる日本水大賞は、これまで応募総数、延べ4,197件（日本水大賞3,864件、日本SJWP333件）に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、延べ336件（日本水大賞292件、日本SJWP44件）を数えます。後援をいただくのは、水循環政策本部、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省の他、関係34団体。協賛企業は6社1団体であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、多くの活動される方々の励み、目標となり、広く国民に水循環の健全化の重要性を啓発する機会として発展を遂げてきました。



対象範囲

(1) 対象となる活動の内容（活動分野）

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

①水防災：

- ・防災教育、住民避難の円滑化への取組み
- ・水防災に対する安全性の向上に資する技術の開発・普及等

②水資源：

- ・水を大切に取る取組み、山や川などの水源を大切に取る取組み等

③水環境：

- ・川や湖沼、海などの水をきれいに取る取組み、水辺や水のある地域づくりを行う活動
- ・水にかかわる体験活動、環境学習等

④水文化：

- ・水や川、湖沼や海などに対する敬意と親愛を高める活動
- ・水や川、湖沼や海などの文化を創り、広める活動（芸術、文学を含む）、地域における水文化の発掘や普及等

⑤復興：

- ・上記①から④に該当する活動のうち、地域の復興の視点から実施されるもの

※その他、上記①～⑤に関係する国際的な連携・技術協力・学会活動



(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞 200 万円）

水循環の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

②大臣賞【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】（賞状・副賞 50 万円）

各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

③市民活動賞【読売新聞社賞】（賞状・副賞 30 万円）

市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

④国際貢献賞（賞状・副賞 30 万円）

活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

⑤未来開拓賞（賞状・副賞 10 万円）

国内外を問わず水分野における新たな展開を対象とし、特に優れたものに対して授与します。

⑥審査部会特別賞（賞状・副賞 10 万円）

活動がユニークなものなど、審査部会において特に表彰に値すると判断されたものに対して授与します。

第22回日本水大賞 各賞（応募総数142件）

| 各賞 | 活動主体 | 都道府県 | 活動の名称 | 活動主体の名称 |
|---------|------|------|--|---------------------------|
| 大賞 | 団体 | 茨城県 | 災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み | 常総市根新田町内会 |
| 国土交通大臣賞 | 学校 | 新潟県 | 地域住民と連携し地域の防災力を高める水防災教育の取組 ～学校中核とした地域防災教育の実践～ | 新潟県三条市立第四中学校 |
| 環境大臣賞 | 団体 | 高知県 | 森川里海の人と自然の好循環がもたらす海の中の森づくり | 特定非営利活動法人黒潮実感センター |
| 厚生労働大臣賞 | 団体 | 東京都 | 水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊 | 全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 |
| 農林水産大臣賞 | 団体 | 埼玉県 | ホツツケの里山自然環境の保全活動 | 特定非営利活動法人宮代水と緑のネットワーク |
| 文部科学大臣賞 | 学校 | 愛知県 | 三河湾の環境調査 | 愛知県立時習館高等学校 SSH生物部 |
| 経済産業大臣賞 | 企業 | 岐阜県 | 小水力発電による持続可能な社会の実現 | 有限会社角野製作所／特定非営利活動法人地域再生機構 |
| 市民活動賞 | 団体 | 青森県 | かけがえのない湧水群を次世代に引き継ぐための事業 | 十和田市名水保全対策協議会 |
| 国際貢献賞 | 団体 | 福岡県 | マレーシアで魚釣りを楽しむ -水資源保護・環境改善の取組み- | 特定非営利活動法人紫川を守る会 |
| 未来開拓賞 | 学校 | 大阪府 | 水環境の新たな改善方法 ～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～ | 清風高等学校 生物部 |
| 審査部会特別賞 | 行政 | 東京都 | 荒川下流の柔らかなワンド整備と見直しによる維持運営 | 北区・子どもの水辺協議会 |

第22回日本水大賞 各賞 受賞理由

【大賞】(賞状・副賞 200 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 常総市根新田町内会 (茨城県・団体) |
| 活動名称 | 災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み |
| 活動の動機・背景 | 平成27年9月の関東・東北豪雨における被災を契機とした水防災意識社会の構築に向けた地域防災力の向上。 |
| 活動の概要 | 平成27年の関東・東北豪雨を契機とした「地域コミュニティが命を守る」被災自治会の取り組み。 <ul style="list-style-type: none"> ・全国に先駆けモデル地区に指定され、住民参加の検討会により「マイ・タイムライン」を作成。 ・自治会が携帯電話のショートメールを活用し、事前防災情報、要救助情報などを全町民に一斉発信。 ・行政と連携し、防災士の育成や防災指導士の連携の場となる常総市防災士連絡協議会の発足・運営。 ・自主防災組織による全世帯への防災啓発活動や全国において、60講演を超える出前講座等の社会貢献活動による「マイ・タイムライン」等の普及促進。 |
| 評価ポイント | 「地域コミュニティが命を守る」との理念の下、全国に先駆けた「マイ・タイムライン」のモデル地区として「災害犠牲者ゼロ」に向け住民が積極的に参加し、地域防災力向上に貢献。被災体験地区としての取り組みを、出前講座等を通じて全国に啓発するなど水防災意識社会再構築に向けた貢献度が極めて高い有意義な活動である点。 |

【国土交通大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 新潟県三条市立第四中学校 (新潟県・学校) |
| 活動名称 | 地域住民と連携し地域の防災力を高める水防災教育の取組 ～学校中核とした地域防災教育の実践～ |
| 活動の動機・背景 | 2004年、2011年における被災経験を踏まえた「自分の命は自分が守る」意識を醸成。 |
| 活動の概要 | 学校が核となり地域と一体となった防災教育・訓練の実践。 <ul style="list-style-type: none"> ・数学授業において現在の時間降水量が継続した場合、何時間後に想定する総雨量に到達するかなど、防災とリンクさせた授業の実施。 ・三年生の授業で防災技能講習を受講し、技術を取得。技術を取得した学生が講習会「四中レスキュー」を開催。 ・保護者等を含む地域と一体となって行う洪水防災避難訓練。 |
| 評価ポイント | 通常授業に防災意識向上のための工夫を加えるとともに、学校活動のみにとどまらず、関係機関や地域住民と積極的に連携するなど、学校を核にして地域全体に防災意識を醸成させている実効性が高い活動である点。 |

【環境大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 特定非営利活動法人黒潮実感センター (高知県・団体) |
| 活動名称 | 森川里海の人と自然の好循環がもたらす海の中の森づくり |
| 活動の動機・背景 | 磯焼けの深刻化に伴うアオリイカ資源の減少、ダイバーと漁業者のコンフリクト、放置林の存在等の複数の課題解決。 |
| 活動の概要 | アオリイカ資源の回復をきっかけとした森から海に至るまでの取り組み。 <ul style="list-style-type: none"> ・スギやヒノキの間伐材を活用した人工産卵床の設置。 ・漁協と対立していたダイバーとの協力関係の構築。 ・森林組合、行政と共同で行う「海の中の森づくり」活動への発展。 |
| 評価ポイント | 森・川・海のつながりを重視し、海域環境の改善に向けて、ダイバーとのコンフリクト、放置林の存在などの地域に存在する複数の課題を同時に解決していくユニークな工夫がなされ、長期の取り組みで成果を挙げってきた実践的な活動である点。 |

【厚生労働大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 (東京都・団体) |
| 活動名称 | 水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊 |
| 活動の動機・背景 | 水浄化設備は進化しても、全国的に水に関わる環境は悪化しているとの問題意識。 |
| 活動の概要 | 管工事(水道工事)業界の協議会としての水にまつわる多様なボランティア活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・使われなくなった水田で稲作を実施し、地下水を涵養。 ・水源地・河川の清掃、水源涵養林の整備。 ・公共施設の漏水修理による節水への取り組み。 ・活動に関するコンペ形式の導入。 |
| 評価ポイント | 水道工事に携わる自分たちの業務が「水の大切さ」を支えているという意識を出発点にして、活動モチベーション向上への工夫も加えながら長年にわたりボランティアとして全国的に多様な取り組みを積極的に継続してきた点。 |

【農林水産大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 特定非営利活動法人宮代水と緑のネットワーク (埼玉県・団体) |
| 活動名称 | ホツツケの里山自然環境の保全活動 |
| 活動の動機・背景 | かつては新田として開発され、現在では水環境の一部を構成している「ホツツケ」(掘上田)の水辺部分の環境的価値の保存。 |
| 活動の概要 | 「ホツツケ」を自然豊かなビオトープとして捉えた利活用活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちを対象とした田植え・稲刈り体験(「田んぼの学校」)。 ・生き物調査と子供たちへの解説。 ・ホタルの自生を促す放流活動。 ・野草保全地の保全作業、ハンノキの移植作業。 |
| 評価ポイント | 江戸時代に新田として開発され現在も豊かな自然を残すエリアにおいて、その自然環境としての価値の維持のみならず、農業体験(米づくり)を通じた子供たちへの教育などの地道な活動を長年にわたり継続してきた点。 |

【文部科学大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|--|
| 活動主体 | 愛知県立時習館高等学校 SSH生物部 (愛知県・学校) |
| 活動名称 | 三河湾の環境調査 |
| 活動の動機・背景 | 三河湾の海洋環境問題(赤潮、苦潮、魚介類の大量死)。 |
| 活動の概要 | 三河湾の環境悪化の原因を把握するための河川域を含む環境調査。 <ul style="list-style-type: none"> ・三河湾各水深での水質調査、いくつかの地点での底質調査。 ・海洋プランクトンの採集と観察。 ・流入河川の水質・底質調査。 ・調査研究成果の発信 など。 |
| 評価ポイント | 高校の部活動において、原因を明確化することを目的に多くの要素を含む調査結果を積み重ねながら影響因子を考察可能とした研究水準の高さに加え、調査研究成果の発信による社会への啓発に努めてきた点。 |

【経済産業大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

| | |
|----------|--|
| 活動主体 | 有限会社角野製作所／特定非営利活動法人地域再生機構 (岐阜県・企業) |
| 活動名称 | 小水力発電による持続可能な社会の実現 |
| 活動の動機・背景 | 社会における化石燃料の代替エネルギーの必要性。 |
| 活動の概要 | 小水力発電装置の開発と技術の活用。 <ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電装置の研究開発、実証実験。 ・小水力発電装置を用いた環境学習の推進。 ・ミャンマー国への普及活動。 ・この技術に関する海外への発信。 |
| 評価ポイント | 小規模な一企業(いわゆる“町工場”)が、研究機関、教育機関、行政、国際機関等の協力を得ながら、小水力発電の技術開発、実証実験等を通じて、世界的な課題であるエネルギー問題への取り組みに尽力している点。 |

【市民活動賞】(賞状・副賞 30 万円)

| | |
|----------|--|
| 活動主体 | 十和田市名水保全対策協議会 (青森県・団体) |
| 活動名称 | かけがえのない湧水群を次世代に引き継ぐための事業 |
| 活動の動機・背景 | 観光目的の開発が発端となる水質汚染など、経済優先の行為が自然環境の汚染につながる動きに対応すべきとの問題意識。 |
| 活動の概要 | 湧水地を後世に引き継ぐための諸活動。 ・湧水地の保全活動(植樹、環境整備、清掃、水質検査等)。 ・湧水地を題材とした学校における環境学習の支援(小学生対象)。 ・水資源の重要性を発信する活動(講演会開催など)。 |
| 評価ポイント | 地域住民の自発的な取り組みとして、湧水地の保全活動を軸にしつつ、そこにとどまることなく水環境を保全していく重要性を訴えていくなどの 30 年以上にわたる継続的な活動であること。 |

【国際貢献賞】(賞状・副賞 30 万円)

| | |
|----------|--|
| 活動主体 | 特定非営利活動法人紫川を守る会 (福岡県・団体) |
| 活動名称 | マレーシアで魚釣りを楽しむ -水資源保護・環境改善の取組み- |
| 活動の動機・背景 | 開発途上国の公共水域における深刻な水質汚濁。 |
| 活動の概要 | マレーシアにおける水質改善に向けたいくつかの取り組み。 ・紫川(北九州市)における先進事例の情報提供と実践支援。 ・地域住民の参加を得た河川清掃活動。 ・廃棄物の3R活動(Reduce, Reuse and Recycle)の実践。 ・環境保全意識向上のための市民魚釣り大会の実施 など。 |
| 評価ポイント | 自国の技術を発展途上国に普及させる実践的な活動であり、支援内容の工夫や支援モデルの提供により環境保全に関する意識と手法が活動地域に根付くような成果を挙げてきた点。 |

【未来開拓賞】(賞状・副賞 10 万円)

| | |
|----------|---|
| 活動主体 | 清風高等学校 生物部 (大阪府・学校) |
| 活動名称 | 水環境の新たな改善方法 ～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～ |
| 活動の動機・背景 | 絶滅危惧種(ニッポンバラタナゴ)を保護するためのアオコ抑制を出発点とした湖沼域の水質改善の必要性。 |
| 活動の概要 | ため池の水質改善手法の工夫とヘドロの再利用への取り組み。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘドロ採取とアオコ発生との相関関係の調査による手法の有効性を検証。 ・ヘドロを堆肥利用する可能性の検証。 ・堆肥を河内木綿など地域産品の生産に利用する提案。 |
| 評価ポイント | ヘドロの除去による水質改善への可能性を示す調査研究内容や、堆肥を地域産品の栽培に活用するとユニークな視点が今後のさらなる発展可能性を期待させるものである点。 |

【審査員特別賞】(賞状・副賞 10 万円)

| | |
|----------|--|
| 活動主体 | 北区・子どもの水辺協議会 (東京都・行政) |
| 活動名称 | 荒川下流の柔らかなワンド整備と見直しによる維持運営 |
| 活動の動機・背景 | 汽水性の水辺の自然を豊かに維持していくことが必要との動機。 |
| 活動の概要 | 荒川下流のワンドにおける環境保全の取り組み。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議の提案に基づくワンド整備。 ・ワンドの維持管理に関する基本原則の確認。 ・自然観察の実施、清掃活動 など。 |
| 評価ポイント | 河川利用者である区民と河川管理者である国土交通省をつなぐ位置にある行政機関の役割を適切に発揮しながら、ワンドの整備・保全・活用を通じて河川環境の保全に貢献している点。 |

第22回日本水大賞委員会 委員名簿

| 名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下 | | |
|--------------|--------|--------------------------------|
| 役職 | 氏名 | 所属・職名 |
| 委員長 | 毛利 衛 | 日本科学未来館 館長 |
| 副委員長 | 松田 芳夫 | 公益社団法人日本河川協会 会長 |
| 委員 | 赤星 たみこ | 漫画家・エッセイスト |
| 委員 | 浅枝 隆 | 埼玉大学 名誉教授 |
| 委員 | 大垣 眞一郎 | 東京大学 名誉教授 |
| 委員 | 大島 一哉 | (株)建設技術研究所 相談役 |
| 委員 | 岡田 光正 | 放送大学 副学長 |
| 委員 | 櫻野 泰則 | 一般社団法人日本建設業連合会 環境委員長 |
| 委員 | 進士 五十八 | 福井県立大学 学長 |
| 委員 | 田中 隆之 | (株)読売新聞東京本社 取締役編集局長 |
| 委員 | 谷田 一三 | 大阪府立大学 名誉教授 |
| 委員 | 名執 芳博 | 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合 会長 |
| 委員 | 三浦 啓一 | 一般社団法人日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長代行 |
| 特別委員 | 藤田 耕三 | 国土交通事務次官 |
| 特別委員 | 鎌形 浩史 | 環境事務次官 |
| 特別委員 | 鈴木 俊彦 | 厚生労働事務次官 |
| 特別委員 | 末松 広行 | 農林水産事務次官 |
| 特別委員 | 藤原 誠 | 文部科学事務次官 |
| 特別委員 | 安藤 久佳 | 経済産業事務次官 |

*委員は50音順

令和2年3月5日現在

第22回日本水大賞審査部会 委員名簿

| 役職 | 氏名 | 所属・職名 |
|-----|--------|---------------------------------|
| 部会長 | 浅枝 隆 | 埼玉大学 名誉教授 |
| 委員 | 赤星 たみこ | 漫画家・エッセイスト |
| 委員 | 浅羽 雅晴 | 科学ジャーナリスト |
| 委員 | 安藤 茂 | 公益財団法人水道技術研究センター 理事長 |
| 委員 | 池田 裕一 | 宇都宮大学地域デザイン科学部 教授 |
| 委員 | 太田 進 | 公益社団法人におい・かおり環境協会 事務局長 |
| 委員 | 小俣 篤 | 公益財団法人河川財団 参事 |
| 委員 | 風間 ふたば | 山梨大学大学院国際流域環境研究センター 教授 |
| 委員 | 金沢 緑 | 関西福祉大学大学院教育学研究科 教授 |
| 委員 | 久保 成隆 | 東京大学 名誉教授 |
| 委員 | 佐藤 俊彰 | (株)読売新聞東京本社 科学部長 |
| 委員 | 重 政子 | 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 代表理事 |
| 委員 | 清野 聡子 | 九州大学大学院工学研究院 准教授 |
| 委員 | 高木 宏明 | 一般社団法人日本環境衛生施設工業会 専務理事 |
| 委員 | 玉岡 かおる | 作家・大阪芸術大学 教授 |
| 委員 | 中北 英一 | 京都大学防災研究所 教授 |
| 委員 | 森 誠一 | 岐阜協立大学経済学部 教授 |
| 委員 | 山田 正 | 中央大学理工学部 教授 |

*委員は50音順

令和2年3月5日現在